

令和4年度  
第1回香美市まちづくり委員会会議録【概要版】

日時：令和4年6月29日（水）午後6時半～午後8時半  
場所：香美市立中央公民館1階大ホール  
出席者：まちづくり委員 15名  
事務局（企画財政課）4名、生涯学習振興課2名、定住推進課2名、  
商工観光課2名  
欠席者：4名

○開会

前回の委員会が令和3年11月末で、期間が空いてしまったことを説明する。

その間に、会長・副会長と、協働推進計画に対して様々な意見をもらいながら調整をし、その調整後の計画に対して、今年度始めに、庁内の課長らによる協働推進本部会にかけ、意見のすり合わせを行った上で、本日検討する素案となっていることを説明した。

また、本日举行グループワークは、市と市民とのより深い協働のあり方を模索する上で重要な工程となるため、市民・行政のそれぞれの当事者の立場を踏まえながら、グループワークを盛り上げて頂きたい点を述べる。

○委員会メンバーと職員の変更について

建設・環境部会の河田委員が、今年度から香美市の正職員になった為、委員を外れた。

健康・教育部会の藤原委員が、所属団体の「香美市小中学校PTA連絡協議会長」を退いたため、新しい会長へ委員選出の依頼をする。

事務局側の異動で、班長が西村から山中に変更となっている。

**議 題**

1.香美市協働推進計画（素案）について

【資料2】協働推進計画策定スケジュールを用いて説明

今年度中に計画を完成させるためのスケジュールになる。

今回を含めて9月の中旬ごろまでに、今回と同じような形の、素案の検討とグループワークという形式のまちづくり委員会を行い、その後、第4回として、10月の中旬頃までに推進計画の検討のみの委員会を開き、11月頃には素案を完成させ市役所の庁内会議の協働推進本部会に諮り、12月にパブリックコメントで市民からの意見を募り、3月に公表するという計画である。

この計画の作成にとりかかって4年目になるため、今年度中には完成させるべきと考えている。

【資料1】香美市協働推進計画(素案)を用いて説明

目次は、6つの大項目での構成を考えている。

前半の1～3までは、昨年度の第2回での勉強会の資料の内容が主となり、『大体このような内容でいきたいですが、どうですか?』と皆様にお聞きしたい部分になる。

後半の4～6は、今後作りあげていく部分となり、皆様には“こういう大枠でいきたい”、ということに対してご意見をお伺いしたい部分になる。

簡単に順を追って説明。

「1 計画の概要」では、(1)で、策定の背景と趣旨を文章で、(2)では、計画の位置づけを図式で、そして(3)計画の期間は、上位計画でもある振興計画と終期を合わせた期間を、その右側の頁では、協働のまちづくりが必要な理由を簡単な図式で示している。なお、ここまでの総括になる文章を図の下に入れる予定だが、検討中である。

「2 用語の定義」の、協働の用語の説明は、昨年度の勉強会の資料のものである。住民自治とP5の用語については、過去の資料の定義をそのまま引用しているので、今後精査していく。

「3 協働の領域と形態」は、(1)の領域(2)形態、次の頁8の「・協働をするときに大切なこと(協働の基本姿勢)」については、P8のリューくんの上の点線囲み以外は、今年の勉強会の資料のままである。基本的にはこのままいきたいと考えている。

次の4以降は、今後作成していく部分になる。「4 協働のまちづくりをめぐる現状と課題」は、今後のグループワークや会に出た意見、また過去の委員会が出た意見も参考にして作成していく予定である。

「5 協働の推進に向けた基本方針」は、4の現状と課題を踏まえて作成する。

「6 協働のまちづくりを推進するために」は、まちづくり委員会や協働推進本部会等の組織の位置づけを示す予定にしているが、ここまでの計画がどういうものになるかにもよるため、特に5の基本方針を踏まえた作成とする。

○『文章が分かりづらい。一般の人でも分かりやすい形に見直してはどうか。』

→過去3～4年間の、事務局側と会長等とのすり合わせの過程で、一文が長くなってしまったところがあるが、最後まで読んでもらえる計画の作成を目指しているので、再度検討する。可能なら、修正案の文などを事務局側に頂きたい。

『P4の対等な立場についての説明の、「優劣や高下」という表現は、普通は使わないのではないかと。「年齢・職業・性別等に差がなく」などの具体的な表現が良いのではないかと。また、P5の市民の定義が、市内で働く人なども含めていて広いが、本当にそれで良いのか。市民と住民を混同していないだろうか。』

→この市内で働く人などを含めた市民の定義は、香美市協働のまちづくり条例で定めている定義である。できるだけ皆さんの思いに沿ったまちづくりができるようにとの条例で、住民だけでなく、香美市に関係のある人も市民としてとらえようというものである。

対等な立場については、優劣高下という言い方はある。(→ただし、検討する。)

○『策定スケジュールについて、昨年度は2回しか開催していないのに、今回の開催までに何の通知もなく、立て続けに3回委員会を開き、短期間で計画を完成させるとい

うスケジュールに委員として気持ちがついていかないが、これは決定事項なのだろうか。』

→あくまで予定だが、目標である。できるだけ多く、委員の皆様の意見を聞いて策定していきたいと考えているが、会の開催回数や時期等に意見があるようなら、そこは考えていかなければならない。この計画の策定にとりかかって4年目になるので、策定後の変更もありと考えて、今年度中に一旦は完成させるという目標でやっていきたいので、ご理解をお願いしたい。

『素案について、細かい点まで気になるところを言っていると、相当の時間がかかると思われるが。』

→会の中で時間が足りない分は、文書で修正案を事務局に提出して頂ければ、修正などを検討していく。是非、お願いしたい。

○『どういう話しをしたか覚えていないこともあるので、議事録を全部起こすのは難しいと思うが、各会の内容が蓄積されて後で見返していけるような仕組みを入れて頂けると、言った言わないというような行き違いもなくなると思うので、検討をお願いしたい。』

→香美市公式ホームページに、過去の方も含めて今までの会議の概要を掲載している。(→なお周知の方法を検討する。)



※他に意見があれば、事務局へメール（アドレスは会の開催通知に記載している）などで、伝えて頂くとして、グループワークへ移る。

## 2.グループワーク

※3 部会に分かれてグループワークを行った後、全体発表を行う。  
各部会の司会は企画調整班職員、発表者は各部会のまちづくり委員が行う。

**健康・教育部会** 「香美市よってたかって生涯学習フォーラム」（生涯学習振興課）

※資料 4-1 に基づいて生涯学習振興課職員が説明を行った後、付箋に意見を書く等して、グループワークを行った。

(以下、付箋に書かれた意見より)

- ・企画案を HP で公募しては？
- ・学校関係者中心になるのでは？ 一般市民への宣伝もいる。
- ・香北、物部の住民にも参加してもらうように工夫してほしい。
- ・1 回目から 2 回目、周知等について工夫したこと、アンケート等により改善したことは？
- ・社会福祉協議会も実行委員会に入れてほしい。
- ・工科大生が実行委員会に参加し将来的に中心になってもらったらどうか？
- ・実行委員会は年間を通じて活動する必要があるのでは？
- ・行政だけでなく民間の関係団体、個人も公募等も含めて募り、任期も 3～5 年とした継続性のあるものにした方がいいのでは？
- ・小中学校の発表がパネルだけでは寂しい。
- ・開催時期が 2 月で寒いので、中央公民館など、屋内でも参加できるようにした

方が良い。

(生涯学習振興課説明等)

- ・「よってたかって」という言葉は、インパクトを重視してつけた。  
全てが探求へとつながるといふねらいもある。  
楽しい体験が新しい事をはじめのきっかけになってほしい、山田高校の事をもっと知ってもらいたいという意味もある。
- ・ターゲットとなる年齢は決めていない。全ての方が対象。
- ・人口の1割2600人の来場者が目標で、開催した2年とも達成している。
- ・アンケートによる改善は、(2回目のフォーラムが)メイン会場の山田高校に加えて、本庁舎・伏原遺跡・公民館等をバスでめぐるといふものであったが、会場が分散しすぎて全て回れないといふ意見などがあり、山田高校のみでの開催にしようとなったことなどがある。
- ・教育機関の成果発表の場としては、秋ではなく2月がベストと考えている。

(まちづくり委員による全体発表)

「香美市よってたかって生涯学習フォーラム」は、前身の生涯学習推進大会を拡大し、さらに広く市民へ向けて、「探求」とか新しい体験をしてもらおうと、平成30年から開始されている事業です。平成30・令和元年度と、今まで2回開催されて、以降はコロナで開催できていないとのこと。1回目は山田高校の文化祭に合わせて開催し、2回目は秋に、山田高校を中心に、中央公民館とか市役所とかを周遊バスで回るような形にした。2回目の分散開催は、出店(展)者側からすると不評で、またもとの2月の山田高校の文化祭で、という形に戻ったということです。(ただし、その3回目はコロナで中止)

教育のお祭り・探求の発表の場・市民に知ってもらうためのきっかけの場が目的ということですが、山田高校の文化祭と同時開催が良い事なのか、とか、2月という寒い時期の開催は、出店(展)者もお客さんも大変なので、2月開催が適切かという意見もありました。

ターゲットがあいまいということはありませんが、目標としている人口の1割程度の2600人の参加者は得ているということで、それなりの認知度はあるということでした。香北・物部の人がどれくらい来ているかということもしっかり考えることが必要であると思っています。

あとは、やることに目的となっているアドバルーン型のイベントになっているのではないか、本当の意味で、よってたかって子どもを教育していくという町にするのであれば、実践発表の場は継続的に年間を通じて行う必要があるので、もう少し連携を強めてやっていて、その中で、この『よってたかって生涯学習フォーラム』というイベントがあるという形が理想ではないか、という意見もありました。

また、行政主導で行っているところがあるため、関係機関側からの主体的な動きになってほしいという点について、いくつか出たアイデアは、社会福祉協議会とか、まだ声掛けがされていない団体があるのではないかということや、例えば工科大学生が実行委員会に加わり、将来的には工科大生が中心になってもらえるようになったら良いのでは、ということでした。

告知の部分に関して、もっとオープンにして、認知度を上げるために、企画を公募型にしても良いだろうし、小学生の参加が、パネル展示がメインになっているので、保護者やいろんな人に来てもらうためには、実際に小学生が来て集まって、そこに保護者も来て、他の取り組みを知るみたいな形にもっていけたら、より盛り上がるのでは、というような話をしました。

**産業部会** 「広域観光」(商工観光課)

※資料 4-5 等に基づいて商工観光課職員が説明を行った後、付箋に意見を書く等して、グループワークを行った。

(以下、付箋に書かれた意見より)

- ・DMO の開発商品、検討されたものが、公表・周知されていない。
- ・観光メンバーだけでなく、広く連携できるようにしてほしい。
- ・住民や観光客も SNS で発信したら良い。
- ・空港からのアクセスバスを充実させる。
- ・大小問わず、民泊をもっと検討できれば良い。
- ・3 市の観光大使が PR をする。
- ・施設の磨き上げをする。

(まちづくり委員による全体発表)

「協働の基本姿勢」に対しては、DMO で検討された開発商品が、地域の事業者等に公表・通知されていないので、もっと公表してほしいという意見が出ました。

「役割分担について」は、観光メンバーだけでなく広く連携できるようになってほしいという意見が出ました。

「担い手について」は、3 市の観光大使が集まって PR してもらえれば良いのでは、という意見と、住民や観光に来ている人からも SNS 発信をしてもらえれば良いという意見が出ました。

「その他」については、香美市には大きい宿泊施設がないこともあって、民宿をもっとできればよいのではないかという意見、空港からのアクセスが悪いこともあり、アクセスバスの充実やそういう点をよくしていけたら、という意見、施設の磨き上げをしていけば良いという意見がでました。

**建設・環境部会** 「ものづくり会議」(定住推進課)

※資料 4-3 に基づいて定住推進課が説明を行った後、付箋に意見を書く等して、グループワークを行った。

(以下、付箋に書かれた意見より)

- ・目的にそった運営がされているか？
- ・関係者が参加しているか？
- ・委員メンバーが目的にそった人か？メンバーを網羅しているか？
- ・テーマが決まっている場合は、委員を公募するのもありでは？
- ・人材育成には、現場の人の意見が必要。
- ・人材育成した人の受皿をどうするか。  
(人材が育った後に、受け入れる環境が整っているのか。)
- ・人材の受皿づくりには、商品のセールスまで視野に入れた委員も必要。
- ・委員会と分科会のつながりが良くない。
- ・分科会の広域的な受け入れを行う。  
物部川ブランドなど、他市の広域に働きかける。
- ・工科大の学園祭へ分科会を入れ込んで？
- ・会議の新しいテーマとして、「林業」はどうだろう？

- ・会議での取り組んだ事業や商品化の名称について、適切かどうか検討しているのか。

(まちづくり委員による全体発表)

「ものづくり会議」の事業は、人材を育成することで移住者を増やすことが目的にあります。しかし、人材を育成するだけでは、県外へ出て行ってしまいうので、受け皿が必要で、そこまで視野に入れて計画をしているのかという意見がありました。

情報公開と共有については、広報香美や議会だよりで周知をしているが、充分ではない場合もあるとのことでした。

役割分担については、委員会と分科会が、もっと関係者の意見を聞き入れて議論していく必要があるのでは、という意見が出ました。この事業の目的に沿ったものになっているかということを確認して、足りない部分を補う必要があると考えます。

担い手については、公募委員をもっと取り入れた方が良いのではないかと、という意見がありました。

その他として、物部川ブランドの商品化というところで、香美市のブランドなのだが、物部川という名前で、勘違いする人がいるかもしれない、もっと広域に協力を求めて、広域としてのブランドとするのか、香美市としての名前に変更するのか、考えた方がいいのではないかと意見が出ました。

## 2.その他

『(まちづくり委員会オンライン開催についての)アンケートについて、オンラインでやるというのが良く分からないが。何かソフトがいるのか。また、人の表情も分かりづらいオンライン会議は、あまりこの会に向いていないと思うが』

→ズームやミーティング等での利用を考えている。

現段階では、あくまでその環境が整っているかの確認で、強要するものではない。長期間開催できないことを防ぐ方策の一つとして、頂いたご意見も含めて検討したい。

### ○閉会(挨拶より)

- ・推進計画案について意見があれば、事務局へ文書で送って頂きたい。
- ・できるだけ分かりやすい推進計画としたい。
- ・グループワーク等の意見を、計画本文に反映するのには、少し時間がかかるかもしれない。